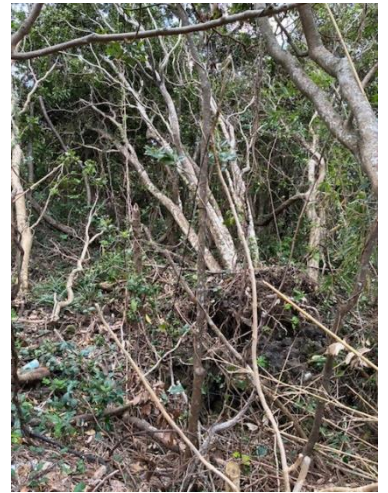


## 八丈島

先の連休を利用して、八丈島（東京都八丈町）へ行ってまいりました。10月に2度にわたり台風が八丈島を直撃し、突風や土砂災害による家屋倒壊や断水など大きな被害が発生しました。教員になってから25年の付き合いのある先輩が八丈島で暮らしているのです、お見舞いに向かったのです。直後は「3週間、家に帰れていない。」と電話の向こうで語っていました。がれきの撤去、屋根などの仮修理、水や支援物資の配布・・・、復興のために、ありとあらゆることに力を注いでいたそうです。風による被害も多く、根ごと引き抜かれたように倒れる大木がいたるところに確認することができました。被害を受けた家屋に修理を依頼しても、職人さんの数が足りず、現状のまま。もともと人が住んでいなかった家屋は倒壊したまま、行政も手を付けられずにいるという場合もありました。スポーツ公園は廃材置き場に指定され、がれきの山。昨年度、清瀬中学生徒会とWEB交流した町立富士中学校は体育館の屋根が飛び使用不可に。皆さん



倒壊した木造家屋  
回収のめどが立たない。



海岸から離れていても、屋根が吹き飛ばされた。



壁やガラス窓が吹き飛ばされた  
港近くの建物。

の懸命な努力で、6か所ある温泉施設のうちの1つが再開、スーパーが再開、道をふさぐがれきは撤去するなど少しずつ八丈の町づくりが再開しています。



がれき置き場と化した南原スポーツ公園。

3年A組は社会の公民の授業。「清瀬市ではどのような町づくりが望まれているか」グループで考えました。“若い世代の暮らしやすい町”“交通環境の整備”“平等社会の推進”等の意見が出ました。市全体の事、施設の

の事、そして思いやりを広めるなど未来に向けて意見が交わされました。

今回、避難先が再び土砂災害に見舞われることになるという悲劇が起きました。住民説明会を開いたそうですが、先輩は、この会の内容を知った時が一番つらかったと言います。「住民からは、判断が正しかったのか、他に選択肢はなかったのか、と問いただされる。説明に回る役場の人間も住民同様被災者。中には住宅に著しい損害を被った人間もいる。瞬時に判断を迫られ、その時々最善の判断をしたはずだ。そこを互いに理解し、許し合い、助け合って、建設的に未来に向けた話をすることはできなかったのか。」と。

八丈島の被害と復興に向けて動いている今は見ることはできましたが、島民の方々の傷ついた心までは見ることはできません。やがて島民の方々の傷がいえ、心に余裕ができ、手を取りあって、真っすぐ八丈の未来に向うことを祈ります。

月と夕焼けが共演し、島央を真っすぐに貫く道路を彩っていました。



一部屋根が無くなった富士中体育館。外からガラス越しに撮影。

